

第2章-1 古代インド

1. インダス文明 BC.2300 ~ 1800 頃

ドラヴィダ人(?)による都市文明

浴場・上下水道、焼き煉瓦の家屋、ただし宮殿・神殿なし
青銅器、未解読の象形文字、印章

ハラッパー (上流、パンジャブ地方)、モエンジョ・ダロ (下流、シンド地方)

2. アーリア人社会とバラモン教

BC.1500 頃 アーリア 人 (インド=ヨーロッパ語族) がインダス上流域に侵入・定住
中央アジアからカイバル峠 (唯一のインド進入路) を経て

BC.1000 頃 鉄器使用開始、ガンジス川流域へ進出

※ バラモン 教……もとは自然崇拝の宗教

賛歌集「リグ・ヴェーダ」は、ガンジス進出以前の成立

その他のヴェーダ (各種の聖典) も BC6 世紀頃までに編纂

次第に形式化→僧侶身分を頂点とする階級社会の形成

4 つの基本身分 = ヴァルナ (種姓、“色”の意味)

- ①. バラモン ……僧侶
- ②. クシャトリヤ ……貴族・武士
- ③. ヴァイシヤ ……平民 (商人、農民、牧畜民)
- ④. シュードラ ……隷属民

これがさらに無数の ジャーティ に分類 (出身地・言語・職業などによる)

→ カースト 制度

⇕

※バラモン教の奥義 = ウパニシャッド 哲学 ……自然と人間との関係を考察。インド哲学の源泉

宇宙の本質 = ブラフマン (梵) vs 個々の生命 = アートマン (我)

この2つが本来は一体である (梵我一如)、ということ悟れば

“輪廻” から “解脱” できる、と説く。

りんね げだつ

3. 新しい宗教の成立 BC.5 世紀

(1). 仏教 ……開祖 ガウタマ・シッタールタ (ブッダ、仏陀=悟りを開いた者)

シヤカ族の王子だったため釈迦牟尼 (=シヤカ族の聖者) と呼ぶ

諸行無常を悟り、煩惱を捨て、八正道 (正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定) を実践

→ 四苦八苦から自由になる (=解脱する、涅槃に入る)

四苦 (=生老病死)、愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦

(2). ジャイナ教 ……開祖 ヴァルダマーナ (マハーヴィラ)

禁欲、苦行、徹底した不殺生

いずれも、バラモンの権威・形式主義を否定

4. 統一王朝

BC.6世紀頃から都市国家が多数出現→ コーサラ国やマガダ国が優勢に

(1). マウリヤ朝 (317～180.BC頃)

▶ 初代 チャンドラグプタ が、マガダ国のナンダ朝を滅ぼす。 首都 パータリプトラ

▶ 最盛期 アショーカ王 (268-232.BC) ……南端をのぞくほぼ全インド統一

〔 石柱碑、磨崖碑 ……仏法 (ダルマ) による政治精神を刻む
セイロン島 etc.に仏教を布教
第3回 仏典結集 (けつじゅう) ……パーリ語により仏教の経典を編纂

※インダス川上流北西部の勢力の変遷

バクトリア (ギリシア人) → 大月氏国 (東方遊牧民)

(2). クシャーナ朝 (AD.1c～3c、イラン系) ……首都 プルシャプラ (現ペシャワール)

大月氏国から独立、西北インド支配

▶ 最盛期 カニシカ王 (130-170頃) ……ガンジス中流域まで支配

〔 ガンダーラ 美術……ギリシア彫刻の影響で仏像が作られる
第4回 仏典結集 ……サンスクリット語による編纂

◆このころ仏教の変質…… 大乘仏教 の発生=万人救済の宗教へ
ナーガールジュナ (竜樹) が大成 (空の思想)

⇕

これが中国・朝鮮・日本へ伝来

従来の個人修行の仏教= 上座部仏教 (「小乗仏教」は蔑称) → 東南アジアへ

◆同じ頃、南インド…… サータヴァーハナ朝 (BC.1c～AD.3c)

ローマとの季節風貿易さかん

(3). グプタ朝 (320～550頃) ……首都 パータリプトラ

▶ 最盛期 チャンドラグプタ2世 (超日王、376-415)

東晋の僧 法顕 がインドへ

インド古典文化の完成期

・ グプタ様式 (純インド風の仏教美術)、アジャンター、エローラの石窟寺院

・ サンスクリット 文学

二大叙事詩「マハーバーラタ」「ラーマヤナ」

宮廷詩人 カーリダーサ の戯曲「シャクンタラー」

・ 医学、薬学、天文学、数学 (ゼロ の概念発見)

ヒन्दウー教 の成立……バラモン教から派生、シヴァ 神・ヴィシュヌ 神などの信仰

『マヌ法典』……カースト制度に基づく生活指導書

→中央アジアの遊牧民エフタルの攻撃により混乱

(4). ヴァルダナ朝 (606-647)、ハルシャ王 (戒日王)、首都カナウジ

唐僧 玄奘 がインド来訪、ナーランダー 僧院 (グプタ朝後期に創立) にて学ぶ

少し遅れて7世紀後半……唐僧 義浄 もインド来訪、同僧院に学ぶ

7世紀頃～ バクティ運動……ヒन्दウー教の熱烈な宗教運動→仏教・ジャイナ教を攻撃

8～10世紀は政治的分裂が続く→10世紀末からイスラム勢力の侵攻 (ガズナ朝、ゴール朝)

※南インドは別の文化圏……タミル語、ドラヴィダ人、「海の道」での交易。 チョーラ朝 (BC.3c～AD.13c)